



ニューズレター あすか

2008
6月号

通算 183号

2008年6月1日

医療法人あすか入社式

日時：平成20年4月3日（木）
場所：中区アンデルセン

医療法人あすかの入社式は例年のように本通りアンデルセンで行いました。学校を卒業して初めて社会人となったフレッシュマン7名、社会経験のある人2名の入社式です。新入職員を代表してシヨートステイ勤務の大村まいさんが抱負を述べてくれました。



理事長
高橋 勲

理事長からは、『目標を持って仕事に取り組むこと、いい医療、看護、介護を提供するためのチームワークの大切さ、分らないことは自分で学習すること、先輩たちにどんどん質問してステップアップしていくこと、新人の間はどんなことでも遠慮なく質問できるのです。あすかでは2005年からISOを取り入れた仕事の仕組みを導入していますが、

これを理解して患者さんや利用者の方へのサービスの向上のために努力をしていくこと』などのお話がありました。

その後、永年勤続表彰、送迎無事故運転表彰が行われました。

入社式が終わったあとは楽しい歓迎会、工夫を凝らした各事業所・各委員会の紹介がありました。お料理もとてもおいしく楽しい入社式、歓迎会でした。出席者全員、「今日から始まり」との新たな気持ちで出発いたしました。

しゅりあちよーくリーダー

沖田 真弓



抱負を述べる

新入職員代表 大村まいさん



【ページ】

【目次】

1. 平成19年度認知症介護実践研修報告・・・2
2. おもしろきかな我が人生
～梶岡 ツヤコさん～……………3
3. あすか事業所だより……………4
4. アートの世界……………5
5. ユニットケアの「空間作り」について・・・6
6. 書道グループ 表彰式
7. あすか6月のロードショー
8. 若竹句会 4月作品抄 ……………7
9. ホームページの紹介……………8



明日ありとおもふ心の仇ざくら
夜半に嵐の吹かぬものは

書道参加のご利用者様作
カレンダー

平成19年度認知症介護実践研修報告

2月25日から28日の4日間

テーマ：～その人らしい暮らしを支えるアセスメントとケアプラン

（認知症高齢者の生活の捉え方）～

この度、四日間の認知症介護実践研修に参加しました。この研修で学んでいくなかで、私のこれまでの関わりを思い返してみると、ご利用者様本位の関わりがまだまだできていなかったことに気付かされました。その理由としては一人一人のご利用者様のことをよく知ることができていないことがあります。その方がどんな性格で、何が好きで、何が嫌いなのか、どんなふう生きてこられたのかといったような、長年に渡って自分で築き上げてこられた生活の仕方やペースをもっと深く知る必要があると感じました。それを知らなければ、その方らしい生活を送ってもらうことはできないからです。

研修のなかで、「認知症の方は自分で自分らしさを保つことが困難になり、常に不安やストレスを感じておられる」という話がありました。また、私たちスタッフがその方のことをもっと深く知り、その方らしい生活に近づくように意識して接することで、不安やストレスを少しでも取り除くことができるかもしれないということも知りました。そのためにも、これまで以上にご利用者様といろいろと話をし、その方のことをひとつでも多く知りたいと思います。今より少しでも不安やストレスの少ない生活を送っていただけるよう、その方にとってあたり前の生活とは何かを常に考えながらご利用者様と関わっていきたいと思います。

つどいの家介護職員 山岡 剛



テーマ：認知症高齢者を取り巻く人的環境及び物的環境について

認知症介護実践研修に4日間参加して勉強してきました。

認知症高齢者にはその方の世界があります。その方の内的世界を自分の内的世界であるかのようにとらえ、一緒に感じていく事が大切です。例えば私は40歳だ！！という認知症高齢者がおられると、私たちは40歳になりきり、同じ時を共に受容、共感、傾聴していきます。

研修を通して学んだ事の中にこのような事がありました。

ご家族の方が「うちのお婆ちゃん寂しがりやだから大部屋にして下さい」と言われる方がよくおられますが、実は大部屋にいる時よりも個室の時の方が、自ら部屋から出て他の方と会話・交流する機会が多いそうです。大部屋というのは、自分のテリトリーが守られていません。又寝る時のイビキや物音などで十分な睡眠も確保されるとは言えず、ストレスを感じてしまう事があるとの事です。調査の結果、大部屋では1日平均2回程度しか、会話・交流をする事が無いそうです。その分個室では、自分のテリトリーは守られており、睡眠も確保されます。その点安心して自ら外に出て会話・交流をするそうです。個室と言う身の置き場がある事で、かえって人は外に出て行こうとするのではないのでしょうか。

個室にすると閉じこもりや孤独になる。寂しいから沢山人がいた方がいいなど、一見そう思いがちですが、それは私たちや施設の固定概念、勝手な想像でしかなかったのではではないのでしょうか？

認知症は奥深く簡単に言えるものではありませんが、その人がその人らしい生活、喜びを感じられるようなケアを。又それを支える全ての関係者が、力をあわせて支援していく事の大切さを、この度の研修を通して学びました。

野ばら介護職員 橋本由美





「広島復興の
力強さは、
心の糧」

大正8年10月21日(88歳)

お住まい...安佐南区西原

趣味...生け花、書道

好物...寿司

農家に生まれて

私は安佐南区の川内で、広島菜を栽培する大農家に生まれました。12人兄弟の6番目でしたから、田畑の手伝いや弟妹の面倒など、とにかく手伝いばかりさせられました。女学校にも行きなかつたのですが、なにせ兄弟が多いものですから、親に「勉強なんかせんでいい」と言われ、泣く泣く諦めました。農家ですし、女の子はすぐ嫁に行くという考え方でしたからね。そして18歳の頃、親の決めた相手と結婚しました。

一人で何役も...

主人とは親戚だったんですよ。向こうの家から私を嫁にくれーと熱心に頼まれ、うちの親にも行けーと言われるものですから、何も考えることなく嫁に行きました。昔は親の言うことは絶対でしたからね。結婚前には何も聞かされていませんでしたが、嫁いでみると姑はリウマチで手足が不自由だったんです。私は一男二女を授かり、農業・家事・育児・介護...と一人で何役もこなすことになりました。毎日毎日働きつめて、とても苦労しました。

忘れられない光景

昭和20年に被爆。西原に住んでいましたが、あの原爆の衝撃音はすさまじ



かったです。田畑で作業していた男性のシャツが黒こげになったり、安佐南でも被害に遭った人は多かったんです。次第に市内から大やけどを負った被爆者がゾロゾロと非難してきました。皮膚はたれ下がってそれはもう恐ろしい姿でしたが、私は幸い元気でいたから、できる限り手当てをしてあげたり看病しました。父と妹も亡くなりましたし、一面焼け野原の光景を見ると絶望的にもなりました。でもウチは農家でしたから、物はなくても「食べ物さえあれば何とか生きていける!」と、耐え抜きました。広島の人みんな復興のために、本当によく頑張りましたよ。

主人との思い出

子供たちが独立してからは、所有する西原のマンションで主人と二人ゆっくり暮らしました。生け花や書道など、習い事もしていました。主人は頭が良く几帳面で厳しい人でしたから、私は口答えなんてしたことありません。優しい言葉をかけてくれたこともありませんでした。でも、戦争から帰って来た時、お土産を買ってきてくれたことがあったんです。そういった優しい面もありました。言葉はなくても気持ちには伝わって、嬉しかったですね。

まやるちよーくに参加

平成15年に主人が他界し、現在は娘と暮らしています。以前いたデイサービスをやめて、ケアマネさんの紹介で2年位前からまやるちよーくに通い始めています。絵画・生け花・体操などができますし、スタッフや利用者みなさんと会話できるのが楽しいです。娘と暮らすのは気兼ねがないですし、近くに息子夫婦もいますので安心です。西原はとても便利です。昔、一面が田畑で農業に明け暮れていたのが嘘のようです(笑)。



▶ 二十歳の頃

二十歳の頃のお写真も素敵ですが、おいくつになられても気品あふれる雰囲気、穏やかな語り口調の中に芯の強さを感じました。

まやるちよーく 富永さゆり



花盛りの乙女たち



花見弁当



お花見

☆まやるちょーく☆
4月3日～9日平和台公園
☆しゅりあちょーく☆
4月4日～11日森林公園



桜は満開で天気も良く、とても良いお花見でした。



福廣 ツヤ子さん (89歳) まやるちょーく

「本格的に描き始めたのはまやるちょーくに入ってからなので、絵画歴は8年位ですが、もともと絵を描く事が好きでしたので、描いている時はとにかく夢中になります。」



虹の出ている
この絵がお気
に入り！

羽原 隆子さん (89歳) しゅりあちょーく

「デイサービスに来るようになって13年になるけど、ずっと絵画をしているのよ。絵を描いていると安らぐのよね。恥ずかしいんだけど、“老人作品展”で公民館に出展したこともあるのよ。」
色を重ね、細部まで大切に描かれて、どれも女性らしい・優しい作品に仕上がっています。



山田 澄江さん (93歳) しゅりあちょーく

「絵画は9年前デイサービスに来て始めて、初めの頃は“自分には出来ない”と思っていたの。デッサンと色の配色が難しいけど、今では絵画の時間がとても楽しみなのよ。」
おらかな線で動物や子どもの表情が愛らしく、温かい世界が広がっています。



ユニットケアの

「空間作り」について

～老人保健施設へあれんとへ

実習に行つて

ユニットケアは「ご利用者様の生活を支える」ための手法の一つです。そこには、暮らしを営むための建物や環境（ハード）と一人ひとりの生活に寄り添う職員の毎日の関わり（ソフト）、そしてそのハードとソフトをつなぐ（システム）という3つのポイントがあります。

その中でハードについて「あれんとでは、いろいろな面で工夫されてきました。例えば百室ある利用者の居室のドアは、それぞれ異なった模様になっており、利用者が自分の部屋だと認識できるようになっていました。

また利用者の暮らしに馴染んだ環境を作り出す為にユニット毎に「空間作り」を模索されユニットの入り口は「玄関」、食堂は暮らしが感じられる自宅のような「リビング」として生活感漂う空間を目指し、普通の住まいにあるモノ、色々な家具や置物を集められていました。

そもそも私たちの生活は雑多なものであり、施設を「住まい」としていくまでには空間作りの演出で馴染みのモノを多く取り入れたり、捨てたりして生活感を出していくことが、個別ケアにつながっていくのではないかと思えました。

あすかのショートステイや

つどいの家でもユニットケア

の利点を導入して、心地よい

「住まい」にしていきたいと思



まやるちよーく リーダー 小西 正文

書道グループ 表彰式

（まやるちよーく 4月1日）

（しゅりあちよーく 4月17日）

今年一月、書道グループメンバーさんたちが、ふれあい書道展（書のねんりんピック）に、作品を出展されました。応募総数は20093点でした。まやるやしゅりあちよーくの書道グループの多くの方が「優秀賞」「奨励賞」「敢闘賞」等を受賞されました。表彰式では講師の釈迦郡先生から賞状を授与されました。

このような書道展に挑戦するのも、表彰されるのも、「初めて」「久しぶり」といった方ばかりで、書くだけでなく、人に見ていただく喜びや次への目標・やる気につながったようです。今後も機会があれば、挑戦していきたいと思えます。

▲講師の釈迦郡先生から
賞状の授与



みなさん、達成感で
▼ いっぱい!



あすか6月のロードショー 【ホラ吹き太閤記】

この映画は ショートステイで6/15（日）

まやるちよーくで6/16日（月）・17（火）

しゅりあちよーくで6/19（木）・20（金） に上映します。

各事業所のシアター開催曜日は下記の通りです。

しゅりあちよーく	まやるちよーく	ショートステイ
毎週月・木・金曜日	毎週月・火・金・土曜日	毎週日曜日

各事業所では上映する映画についてのアンケートを実施中です。

皆様のご希望により新しい映画もどんどん上映していきます。

若竹句会四月作品抄



信廣高陽 選 (平成二十年)

梅咲きて 空の青さや 日毛氈

大北 政子

〔寸評〕梅の白、空の青、非毛氈の赤 と、実に色彩豊かな梅見茶屋の一景。くつろいで梅を賞める作者を想像しています。

春浅し 日々しあわせの 朝事かな

大北 政子

〔寸評〕「春浅し」は、春になってもまだ寒く、春色なお十分に整わぬ季節をいいます。朝事は浄土真宗でいう、毎朝の誦経のこと。

孫の手を ひいてお墓へ 春彼岸

栗根 年雄

〔寸評〕これはまた、ほほえましい風景ですね。平明でお彼岸の季節感も出ています。「毎年よ 彼岸の入りに寒いのは 正岡子規」を思い出します。

松明の 火の粉うず巻く 二月堂

栗根 年雄

〔寸評〕三月一日から十四日間、奈良東大寺で国家安穩を祈願する行事を修二会、また二月堂の行いといえます。季語のはたらきを考えてみましょう。

(添作句) 傍線が季語

松明の 火の粉うずまく 修二会かな

お松明 火の粉うずまく 二月堂

春風に 押されて登る 墓参道

伊木 幹枝

〔寸評〕「春風」は暖かくのどかな春の軟風です。春には温和な風とともに疾風もふきさびます。特に春風と言った場合は、駈蕩たるおだやかな風のことを言います。この句、春風駈蕩の中に身をおいて齡の肯定も感じられる悠々たる一句

春一番 精いっぱい 手紙書く

伊木 幹枝

〔寸評〕「春一番」は、春になって最初に吹く南風で、二月中・下旬か三月初め頃吹くといわれています。この句、春を呼ぶ風に刺激されて筆をとったという。きっとこの句を添えたのでしょう。「精いっぱい」が胸にしみます。

垣繕う 手袋はめて 青竹を

河野 一枝

〔寸評〕「垣繕う」は、冬の間雪や風雪でこわれたり、いたんだ垣を春になってから修理すること。仲春の季語こわれた古い竹垣に青竹を添えて、新しい杭や縄を使って形を整えていく。作者は白い手袋の動きが目にとまったようです。

初蝶や 花の中より ふわふわと

河野 一枝

〔寸評〕「初蝶」は、春先にはじめて見かける蝶のことです。春の到来を告げるかのように、いきいきとして泳ぐ。黄蝶や紋白蝶が多いのもいっそう可憐で新鮮な印象を与えてくれます。発見したときの感動が伝わってくる一句です。

木の芽吹き 吸物香る 夕餉の膳

中谷 明子

〔寸評〕「木の芽」は春の木の芽を総称した季語。山椒の芽を特に「きのめ」ということもあります。

(添作句) 山椒の芽 つかみこんだる 夕餉かな

「山椒の芽」で香りを、つかみこんだる「で野趣を添え、「香り」膳」は省略してしまいます。

影法師 背中丸めて 付いて来る

中谷 明子

〔寸評〕「陽射しはつよくなり、影はよく映るけど風はまだ冷たい」と注釈がしてあります。中七がこの句の命。季語のはたらき、省略の効果についてかんがえてみましょう。

(添作句) 春光や 背中丸め 影法師

選者 吟

陽炎を 抜け来し睫毛 洗ひをり

信廣 高陽



ホームページの紹介



あすかのホームページをご紹介します。
第12回目はちぎり絵です！

インストラクターの紹介

栗田 ゆりか

最初は、戸惑うこともありましたが、今では細かい指使いで背景との色のバランスが出来るほど立派に？成長したと自負しています。
今後とも利用者の皆様と一緒にいい作品が出来るよう頑張っていきたいと思っています。

泉 敦子

人に教えることは初めてでしたので悩むことも沢山ありましたが、ご利用者様が優しく教えてくださいました。
これからも季節にちなんだ作品を作り、完成したときの喜びを沢山味わっていただきたいと思っています。



栗田 ゆりか



泉 敦子

あすかでのちぎり絵の目的

指先を使った細かい作業で作品が仕上がる喜びを味わって頂きます。図柄を選び色紙に転写し、背景から貼っていきます。遠近感を出すために遠くから貼っていくのが基本です。仕上がった作品は、しゅりあちよーくの壁に展示して皆さんに見ていただいています。

今後の展開

季節に合わせた草花や風景を作っていく予定です。1つの作品を1ヶ月～半年かけて作りますが、ご利用者様が楽しみながら、作品作りが出来るようお手伝いしていきたくと思っています。

3S

Specialist (専門家)

～医療法人あすかの理念～

職員は、医療、看護、介護の専門家 (Specialist) としての誇りを持ち、実力を高めていくよう努力を続けます。

当法人は ISO9001 の認証施設です



Sympathy (共感)

職員は、患者様と利用者様の人生全体を支えるためにその思いを共感し (Sympathy) 必要なサービスを継続的に提供します。

Safety (安全)

職員は、患者様と利用者様の健康と安全 (Safety) に対して細心の注意を払います。

【編集後記】

本誌では今月、満開の桜の花の下で満開の笑みを咲かせていらっしゃる、ご利用者様をたくさん掲載することが出来ました。編集者にとっては、楽しそうなご利用者様の姿を皆様にお届け出来ることは本当に嬉しいことです。これからも、たくさん掲載できるようにアンテナをはりめぐらせていきたいと思っています。

発行元：医療法人あすか
(編集：浜本 正美・富永 さゆり)
住所：〒731-0103
広島市安佐南区緑井2丁目12-25

あすか通所介護事業所 082-830-0552
あすか通所介護事業所 野ばら 082-870-6704
あすか小規模多機能型居宅介護事業所 つどいの家 082-830-5177
あすか福祉用具貸与事業所 082-870-6700
あすか短期入所生活介護事業所 082-830-0552
あすか通所介護事業所 しゅりあちよーく 082-870-3800
あすか通所介護事業所 かるやんちよーく 082-870-3800
あすか通所介護事業所 まやるちよーく 082-870-3800
あすか通所介護事業所 高橋内科小児科医院 082-879-3143
あすか居宅介護支援事業所 082-830-5177

高齢者の在宅療養を支援します
ご相談はお気軽に

“ニューズレターあすか”は当法人のホームページ上でも見る事ができます

<http://www.asuka-net.or.jp>